

学校目標	1 自ら学び向上しようとする生徒 2 心身ともに健やかな生徒 3 互いを尊重し協調する生徒
目指す学校像	① 厳しい中にも温かみのある学校 ② 環境が整い、清潔安全な学校 ③ 伝統と創造が調和する、力のつく学校 ④ 常に家庭と地域と共にある学校
目指す子ども像	① 希望を持って根気強く努力する生徒 ② 深く考え進んで行動する生徒 ③ 思いやりがあり心に潤いのある生徒
目指す教師像	③ 礼儀正しく自分を適切に表現できる生徒 ① 生徒に親しまれ、健康で明朗な教師 ② 生徒に厳しく要求でき、信頼される教師 ③ 自己に厳しく、生徒に温かい教師 ④ 研究・研修に努め、建設的に働く教師

1 自己評価の結果

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価の観点	評価	分析コメント
学力の向上	基礎学力の定着を図り、学力の向上を目指す	基礎的・基本的な事項を丁寧に指導すると共に、自学自習に取り組む意欲を向上させる	行事の精選や土曜授業の実施を通じ、授業時数の確保と増加を図る	・年間の標準時数を上回れるよう授業時数の確保を図る ・学級ごとの時数管理を徹底し、上記目標を達成する	2.8	数値目標としては、土曜授業の実施もあり授業時数の増加という所期の目標は達成したが、閉校を控え、行事の精選はあまり進まなかった。一層の努力が必要である。
			鐘中3大コンテストを実施し、基礎学力の向上と学習意欲の向上を図る	・コンテストに向け事前学習に積極的に取り組ませる ・コンテストを通して成就感を味わわせ学習意欲を向上させる	2.5	全体的には熱心に取り組めたが、結果には、学年・学級による差や個人差が顕著にみられた。学習意欲の向上についても、個人差が顕著にみられた。引き続き改善に向け努力していきたい。
			家庭学習の習慣化に努め、基礎学力の向上を図る	・全学級で家庭学習課題を与え、家庭学習の習慣化を図る ・家庭学習課題の提出・点検・評価により、基礎学力の向上を図る	2.1	全員に家庭学習課題を与え、家庭学習習慣の確立にむけ取り組んだが、個人差が顕著に出ており全体に徹底するには至らなかった。今後は、家庭の協力も求め徹底を図っていきたい。
生活指導と進路指	集団の一員としての自覚を高め、基本的な生活習慣、社会性、規範意識の向上を図る	基本的な生活習慣の定着を図る指導を充実すると共に、キャリア教育を推進し、社会性や思い	基本的生活習慣5項目の指導を推進する	・生活指導部を中心に全学級で計画的実施する ・日常の学校生活で常に意識するようにする	2.6	全校をあげて取り組んで、多くの生徒に意識は根付いてきている。ただし、実践に関しては個人差が激しい。継続的な指導が必要である。

導 の 充 実		やりのある生徒の育成に努める	職業体験を中心にキャリア教育を計画的に実施し、望ましい「生き方」を考える態度と能力を育成する	・全学年・全学級で計画的に実施する ・キャリア教育を通して、望ましい「生き方」を考え、自分の進路に結びつけて考える態度を身につける	3.5	学校支援ネットワークとの連携により、職業体験や外部講師によるキャリア教育を円滑に実施でき、将来を見据えた「生き方」を意識するようになったが、意識の継続と日常生活への反映といった面では課題が残っている。
			生徒会活動を中心とした自治活動を充実させる	・本部役員だけでなく、委員会活動の活性化を図る ・実行委員会を活用した行事運営により生徒の自主的な活動を推進する	3.0	鐘中3大行事等の大きな学校行事については、本部役員や実行委員など自主的に意欲を持って活動できた。一方で、日常的な活動については、協力的で無い生徒もみられ、課題となっている。
開 か れ た 学 校 づ く り の 実 践	外部機関と連携し地域に開かれた学校作りを実践する	地域の人材の学校教育への参加と生徒の地域活動への参加を推進する	外部講師による授業を推進する	・外部講師による授業を計画的に実施する ・外部講師による授業に対する生徒満足度を向上させる	3.8	学校支援ネットワークとの連携を一層推進し、東京商工会議所墨田支部の協力をいただいた結果、各学年とも計画的に外部講師の導入を図れた。昨年度課題を残した事前の調整不足も改善し所期の目的を達成できた。その結果、生徒の満足度も高く、次年度も積極的に実践していきたい。
			地域と連携した防犯、防災教育を推進する	・地域と連携した計画的な防犯・防災教育の実施 ・防犯・防災意識の向上	2.5	例年通り防犯・防災教育は計画的に実施できたが、生徒の意識の向上が課題として残った。また、震災を受け、防災計画の見直しも課題となってきた。
			生徒の地域行事への参加を推進する	・積極的に地域行事へ参加できたか ・地域行事への生徒の参加率が向上できたか	3.0	地域から参加要請のあった行事へは積極的に参加できた。一方、特定の生徒が毎回参加するなど、参加率の向上には課題が残った。

2 学校関係者評価の結果

- ・学校の取り組みや教職員の活動、学校行事等への生徒の取り組みについては、おおむね好意的な評価をいただいた。(7割から8割)
- ・一方で、通学時のマナーや服装・地域での過ごし方については、引き続き改善の必要性が指摘されている。(マイナス評価の割合が3割から5割)
- ・学校行事等への学校関係者の参加率が、学校公開で5割弱、学校行事で6割弱となっており、昨年度よりは若干減少したものの、引き続き高い関心を持っていただいている。

3 第三者評価の結果(対象校(園)のみ記入)

大項目 1(各教科の状況)・2(生徒の状況)・4(学校・家庭・地域の連携状況)については、評定C「おおむね満足」、大項目3(学校の管理運営の状況)については、評定B「良い」との評価をいただいた。課題解決に向けた教職員の努力を評価していただいたものの、継続的な粘り強い指導や毅然とした措置の重要性が課題として指摘された。また、統合新校へむけての計画的な準備の必要性にも触れていただいた。

4 具体的な改善策

自己評価においては、平均値の 2.5 を下回る項目は、9 項目中 1 項目となっているが、しかし、より詳しく検討すると、取組(努力)目標についての自己評価は、全ての項目で平均値を上回るものの、成果指標に対する評価は、学年によっては平均値を下回る項目が、4 項目となっている。評価の乖離から伺えることは、各項目とも積極的に取り組んではいるが、必ずしも成果(結果)を出すまでには至らない項目があるという事実である。また、自己評価を検証する際の意見で、各項目に共通して言えることとして、取り組み直後には成果が感じられるが、定着までに至らないという実態が指摘されていた。

意識の変化を定着させ、行動の習慣化に高めていく必要性がここでも確認できる。また、それぞれの取り組みへの保護者の協力を求め、家庭との連携をより強化し、取り組み指標への高評価を、成果指標の評価へ結びつけていく努力を継続していきたい。

また、学校関係者評価における生徒の校外での生活への低評価も解決すべき課題であり、この点でも、一層家庭や地域と連携し、指導を強化していきたい。